



日中国際音楽祭に出演した皆さん（南宇和高校吹奏楽部と上海師範大学附属高校吹奏楽団ほか）

輝け！愛南の宝、南高生

町内で唯一の高校である南宇和高校。その学び舎で育った多くの人材が、町内外で活躍しています。その高校時代に、どんな体験をしたのが、その後の人生に多大な影響を及ぼすことは言うまでもありません。

今回の特集では、友や師と日々の厳しい練習を乗り越え、見事、平成20年度全国高等学校総合体育大会出場、日中国際交流音楽祭及び漫画甲子園など、輝かしい活躍を見せてくれた「南高生」にスポットを当てました。皆さんに、生徒たちの輝いた表情をお届けします。



音楽が つないだ 国と国、心と心!

7/4

上海師範大学附属高校の校長先生が、昨年の8月18日、19日に行われた「上海国際音楽祭」での南宇和高校吹奏楽部の演奏に感動され、南宇和高校に生徒を連れて行きたいという思いを抱かれたことがきっかけとなり、日中の国際交流が実現しました。
 (上海師範大学附属高校は、修学

旅行を兼ね、中学生20名、高校生60名、引率教員ほか10名が来町) 来町当日は、南宇和高校で、全校生徒が参加して歓迎式典が催され、柔道部の演技や箏曲部の琴の演奏が行われました。また、上海師範大学附属高校からは、トランペット演奏と独唱があり、和やかな歓迎会と

なりました。夕方からは、御荘文化センターで、御荘、城辺、一本松の各中学校、南宇和高校吹奏楽部、上海師範大学附属高校吹奏楽部が参加して「日中国際交流音楽祭」が行われました。生徒たちの楽しそうな笑顔が印象的で「音楽に国境はない」という

思いを抱かせる感動的なステージでした。また、演奏後は、ホームステイも行われ、生徒にとっては中国を身近に感じる機会となったようです。



上海師範大学附属高校吹奏楽団の皆さん





全国大会に向けての抱負を紹介します。
写真前列右から

小西涼太くん

キャプテンとしてチームをまとめ、決勝トーナメントに残りたい。そして、一つでも多く、全国の強豪にぶつかっていきたいと思います。

若松良健くん

全国大会では、強い人ばかりなので、全力で向かっていきたいと思います。

小松功大くん

団体でも、個人でも、決勝トーナメント進出をめざし、全力で試合に臨みたいと思います。

後列中央 外部コーチの矢野雅巳先生

後列右端

寺岡慎人くん

強い人との取組を楽しみたい。そして、決勝トーナメントに進みたいと思います。

後列左端

山木翔平くん

全国大会という大きな舞台で、試合できることが楽しみです。そして、一つでも多くの試合で勝ちたいと思います。

愛媛
南宇和

力強く押し切りたい！

7/5

相撲部が、平成20年度全国高等学校総合体育大会相撲競技の愛媛県予選団体の部へ小西涼太くん（3年）、若松良健くん（2年）、小松功大くん、寺岡慎人くん、山木翔平くん（以上、1年）で優勝、個人の部で小松功大くん（1年）が優勝を飾り、埼玉県秩父市で開催される「平成20年度全国高等学校総合体育大会相撲競技」（7/29〜31、秩父文化体育センターで開催）に出場しました。監督を務める鵜塚浩幸さんが出場して以来、29年ぶりの快挙

となります。昨年、4月から外部コーチとして選手を育成、サポートされている矢野雅巳さん（城辺中学校教諭）は「生徒とともに問題意識を持って練習した成果が、全国への扉を開いたと思う。チームワークを大切に、全国の強豪に挑んでいきたい」と意気込みを話されました。また、監督の鵜塚さんは「全国大会に出場ができたのも、南宇和相撲連盟の方々の物心両面の支えがあったからだ」と、地域への感謝の言葉を口にされました。スポーツを含め、優勝等の好成績の裏には、選手、指導者、保護者、地域の一体感が必要だと思えます。選手の皆さんには、様々な人の思いを力に、持てる力を存分に発揮してほしいと思います。

思いきり描きたい!

7/9

美術部に所属する山本美有紀さん、稲野和さん、松田伊代さん、下田真由さん（以上、3年）が、2年連続「第17回全国高等学校漫画選手権大会（まんが甲子園）」に出場（8/2・3、高知市で開催）しました。同大会には、全国326校の応募があり、22都道府県、30校が本選に出場し、高校ペンの頂点をめざします。（県内からの出場は、南宇和高校のみ）

今年の全国大会のテーマ（選択制）は「偽装」「世界基準」「CHANG E」「地球人の誇り」「まんが遺産」です。参加する仲良し4人組に、大会に向けた抱負を伺うと「昨年の経験を活かし、しっかりとした準備をしたい。そして、必ず決勝に残ります」と、力強く話してくれました。昨年を経験しただけに「もし、入賞

できなかつたらどうしよう」という不安もあるようですが、自分たちを信じて、思いきりペンを走らせてほしいと願っています。



予選通過作品 テーマ「居場所」

全国大会に向けての抱負を紹介します。

写真左から

山本美有紀さん

主に色彩を担当しています。昨年のリベンジをしたい。今年は、絶対に入賞します。

下田真由さん

私も色彩を担当しています。メンバーの一人として、自分の役割を全力で果たします。

松田伊代さん

私の担当は、下書きです。みんなで力を合わせて頑張ります。

稲野和さん

作品の構想、アイデアを提案するのが私の役割です。入賞をめざしたい。でも、できれば優勝したいと思います。



美術部顧問の
増岡奈緒先生



より遠くへ投げたい!

7/9

陸上部の梶原広大くん（3年）が砲丸投げで、平成20年度全国高等学校総合体育大会陸上競技の愛媛県予選で自己ベストの14mを出して2位、同四国大会で6位入賞を果たし、全国大会（7/29〜8/2、埼玉県熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で開催）に出場しました。

梶原くんは、宇和島市津島町の出身で、自宅から通学しているそうです。通学等、大変なこともあるようですが、陸上部の仲間と一緒に練習することがとても楽しみだとか。砲丸投げを始めたきっかけを伺うと「高校に入学して、砲丸投げをする陸上部の先輩に憧れ、自分もやっ

てみたいと思ったのが始まりです。それから、先生や先輩に指導してもらいながら、徐々に記録が出せるようになりまし

た」と笑顔で話してくれました。また、砲丸投げなどの個人競技は、自分が努力することをあきらめると、記録も伸びてきません。自分を支えてくれる師

や友の存在が、梶原くんを厳しく律してくれているのではと思います。

全国大会では、持てる力を十分に発揮し、自己ベストを更新してほしいと思います。

